

概要版

裾野市

学校教育施設再編基本計画

を策定しました

計画の全編はこちら →



計画の目的

全国的に少子化が進展する中、裾野市においても児童生徒数の減少と学校の小規模化が進んでいる状況であり、ピーク時の45%も減少しています。

学校再編は「児童生徒の減少」と「施設の老朽化」という課題解決だけではなく、未来社会を担う子どもたちのための整備です。

「施設や設備」のための支出を「人づくり」のための支出へ転換する

「床」から「人」への教育費の転換を目的としています。

学校再編の取り組みの経緯

年度	内容
R1	裾野市の教育のあり方検討委員会から提言を受ける
R2	第2期 裾野市教育振興基本計画の策定 裾野市学校施設長寿命化計画の策定
R3	再編推進本部における検討（全7回） 再編検討委員会における検討（全6回） 学校再編意見交換会での意見交換（全88回 1000人以上）
R4	学校教育施設再編基本計画（案）に対するパブリックコメントの実施（全7件） 外部有識者で構成される再編基本計画審議会による諮問答申（全4回）

計画の期間

令和5年度から令和19年度までの15年間の計画です

前期（令和5～9年度） 中期（令和10～14年度） 後期（令和15～19年度）の各期5年で計画します

適正規模と適正配置

再編整備は「適正規模」と「適正配置」の両面を総合的に判断し、実施します

本市における適正規模

クラス替えが可能な1学年2学級以上となる規模

※上記の規模を理想としますが、小学校では「複式学級」になる可能性が高い場合は、再編（統合）について早期に検討を開始します。

本市における適正配置

既存の学校施設及び用地を活用することを前提に、地理的条件に加え社会的な成り立ちによる生活圏域に配慮しつつ、全市的なバランスを考慮した配置

具体的な再編計画

① 向田小学校と東小学校の再編（統合） 統合校舎：東小学校へ

令和7年4月

向田小学校跡地への東中学校の移転

令和10年4月

② 富岡第二小学校と富岡第一小学校の再編（統合）

統合校舎：富岡第一小学校へ

令和9年4月

③ 須山中学校と深良中学校と富岡中学校の再編（統合）

統合校舎：富岡中学校 又は富岡中学校の敷地拡張による新設

中期～後期

④ 須山小学校の小規模特認校制度※の導入

※学校選択制の一つである特認校制を小規模校で実施するもの。
通学区域に関係なく、市内のどこからでも就学を認める制度

中期

⑤ 千福が丘小学校と富岡第一小学校の再編（統合）

統合校舎：富岡第一小学校へ

中期～後期

	前期 (R5～R9)	中期 (R10～R14)	後期 (R15～R19)
①	向田小学校と東小学校の再編（統合）	向田小学校跡地への東中学校の移転	
②		富岡第二小学校と富岡第一小学校の再編（統合）	
③		須山中学校と深良中学校と富岡中学校の再編（統合）	
④		須山小学校の小規模特認校制度の導入	
⑤			千福が丘小学校と富岡第一小学校の再編（統合）

具体的な対策

安全・安心な通学方法の確保

②・③・⑤の再編（統合）では、再編により学区が広くなることから、児童生徒や保護者にとって過重な負担とならないよう、スクールバス等の運行、既存路線バスの拡充、通学費の補助等、各学校の実情に合わせた通学方法を検討します。

そのほか、下記の項目についても再編に伴う課題として支援措置します

- ・児童生徒の心のケア
- ・保護者の負担軽減
- ・学校予算の充実
- ・放課後児童室の利用等